

2017年度 日本臨床検査医学会 第2回 理事会（理事総会） 議事録

日 時：2017年9月2日（土）13：30～16：30

場 所：日本臨床検査医学会 事務所

出 席：矢富 裕理事長、山田俊幸副理事長、村上正巳 総務理事、諏訪部章会計理事、東條尚子 庶務理事、前川真人、宮地勇人（日本臨床検査同学院連絡委員兼務）、メ谷直人（日本臨床検査自動化学会連絡委員兼務）、木村聡、戸塚実、柴田綾子、下正宗、清水力、本田孝行、石井潤一 各理事
尾崎由基男、高木康（日本臨床検査標準協議会連絡委員兼務） 各監事
三宅一徳日本臨床検査専門医会連絡委員（18名）

欠 席：小柴賢洋、賀来満夫、一山 智、通山 薫、岡山昭彦 各理事（5名）

会に先立ち、逝去された次の名誉会員2名、功労会員2名を悼み黙祷が行われた。

2017年4月27日逝去、名誉会員、阿部裕先生（大阪大学名誉教授 享年96歳）

2017年7月18日逝去、名誉会員、日野原重明先生（聖路加国際病院 享年105歳）

2017年2月28日逝去、功労会員、鈴木洋司先生（元防衛医科大学校病院輸血部/助教授 72歳）

2017年4月9日逝去、功労会員、荒井 茂先生（元山形大学 享年83歳）

その後、矢富裕理事長から挨拶があり、柴田綾子理事、清水 力理事を議事録署名人に定めて議事を進めた。

I 報告事項

1. 支部報告

各支部報告の2017～2018年度の支部例会・総会予定、支部地方会予定、支部所属の人事変更等について報告された。

2. 各種委員会報告

1) 編集委員会（村上正巳 担当理事）

3月29日、6月9日に委員会を開催したこと、編集委員5名の交代、編集委員業務確認、2016年度臨床病理誌掲載論文より優秀論文賞候補者として3名を学会賞委員会に推薦したこと、トピックスの確認と立案をしたこと、臨床病理からの転載許可依頼等について検討したことが報告された。

2) 学会賞委員会（戸塚 実 担当理事）

2017年度の学会賞について、事前審査を行ったうえ、8月5日に委員会を開催し、学術賞：笠島里美氏（金沢医療センター）、検査・技術賞：渡邊恒夫氏（岐阜大病院）、若手研究者奨励賞：平千明氏（信州大病院）優秀論文賞：坂井優喜子（竹森）氏（金沢大病院）、鈴木啓二郎氏（岩手医大）、田中真輝人氏（札幌医大病院）を当委員会で承認し、理事長に報告をしたことが報告された。

なお、学会賞受賞者は学術集會に抄録を登録する必要があるが、本理事会の承認後では締め切りに間に合わないため、学会賞委員会からの報告後に持ち回り理事会（8/15 発、8/20 締切）を行い承認した。

3) 標準化委員会（前川真人 担当理事）

IFCC 甲状腺機能検査標準化委員会のフェーズIVスタディが Clin Chem 誌に掲載されたこと、日本での甲状腺機能検査標準化に向けて、メーカーにアンケート調査を実施したこと、JCCLS、ReCCSに委員選出を要請したこと、臨薬協と厚労省に要望書を提出する予定であることが報告された。

4) 倫理委員会（諏訪部章 担当理事）

残余検体の取扱いに関する日本臨床検査医学会見解2017年改訂案を策定中で、近日中に理事会に答申予定であり、第64回学術集會時に研究倫理シンポジウムを主催し、コンセンサスを図る予定であることが報告された。

5) 利益相反委員会報告（諏訪部章 担当理事）

演題登録時のCOI自己申告書修正案、弁護士顧問と会計顧問のCOI自己申告書提出についてメール審議し、それぞれ承認、不要となった。日本医学会のCOI管理ガイドラインの2017年改定を受け、当会の指針、細則およびCOI申告書を見直す予定であることが報告された。

6) 国際委員会報告 (村上正巳 担当理事、石井潤一 委員長)

2017年度の国際学会奨励賞について、委員会にてメール審議し、佐藤恵美氏(東京大病院)、石垣知寛氏(東京大医科研病院)、千葉満氏(弘前大院)を当委員会で承認し、理事長に報告したことが報告された。

なお、国際学会奨励賞受賞者は学術集会に抄録を登録する必要があるが、本理事会の承認後では締め切りに間に合わないため、国際委員会からの報告後に、持ち回り理事会(8/15発、8/20締切)を行い承認した。

7) チーム医療委員会報告 (柴田綾子 担当理事、諏訪部章 委員長)

2017年11月19日(日)、第64回学術集会で、シンポジウム「チーム医療における臨床検査異常データ・パニック値の検査室対応」を開催予定であること、国公私立大学、研修指定病院の検査部に「パニック値全国アンケート2017」を7/31締切で実施し、集計結果は、前述のシンポジウムで発表のうえ、臨床病理誌に原著論文として発表予定であることが報告された。

8) 学術集会企画委員会報告 (木村 聡 担当理事)

2018~2020年度学術集会企画について検討し、教育講演、シンポジウム、専門医教育プログラム、領域別シンポジウム、他学会共催シンポジウム、日臨技との共催シンポジウム、本学会委員会企画の提案内容、方針を決定した。今後は連続企画や単年度プログラムについて、学術集会長予定者3名が連携し内容を選択していくこととした。

2021年(第68回)の学術集会長については、過去20回の学術集会長の所属支部の分布と各支部評議員数とのバランスにより推薦依頼支部を決定する提案がされた。

9) ワークライフバランス委員会報告 (山田俊幸 担当理事)

4月17日に委員会を開催した。託児サービスは、有料とし毎年同様に実施すること、学会ホームページに、第63回学術集会でワークショップのアンケート結果「復職を考えている女性医師」向けの広報説明文を掲載したこと、専門医取得のためのサポートセンターを開設したこと、8月24日に東大で開催した「第1回医学生・研修医のための臨床検査ハンズオンセミナー」が大変好評であったこと、第64回学術集会でのワークショップ「新専門医時代～検査専門医が対応していくべきこと～」等について報告された。

10) 会則改定委員会報告 (谷直人 担当理事、東條尚子 委員長)

第2回委員会を年8月30日に開催し、評議員候補者の要件に関する細則の一部改定、パートタイマー就業規則について検討したことが報告された

3. 関連団体報告

1) 日本臨床検査同学院 (宮地勇人 日本臨床検査同学院 理事長)

平成28~29年度各種認定試験、緒方富雄賞授賞式及び記念講演会、部会活動(実技講習会)、編集事業、関連団体との会合、(一社)日本遺伝子分析科学同学院の研修会及び試験結果、平成30年度事業計画等について報告された。

2) 日本臨床検査専門医会 (三宅一徳 日本臨床検査専門医会 庶務・会計担当)

会員動向、平成29年度の総会、全国幹事会、常任幹事会、出版物、教育・研修活動、広報・渉外活動予定、本年2月24~25日(土~日)、熱海市で谷直人会長のもと開催された第27回春季大会、第28、29回(平成30、31、32年度)春季大会は、それぞれ本田孝行先生(信州大)、横崎典哉先生(広島大)、橋口照人先生(鹿児島大)が大会長として決定したこと等が報告された。

3) 日本臨床検査標準協議会 (高木康 日本臨床検査標準協議会: JCCLS 会長)

平成29年度の会員の移動、常任理事会・理事会・総会での報告及び協議内容、秋に開催のJCCLSシンポジウム、三菱総合研究所再委託事業、平成28年度収支計算書、平成29年度事業計画ならびに収支予算書等について報告された。

4) 日本臨床検査自動化学会 (谷直人 日本臨床検査自動化学会 理事)

2017年9月21~23日(木~土)に、パシフィコ横浜で細萱茂実会長(東京工科大)のもと第49回大会が、2018年10月11~13日(木~土)に第50回大会が開催予定であること、委員会活動、刊行物の発行予定等が報告された。

4. 第 64 回学術集会・第 29 回 World Congress 報告（京都 2017/11/14(火)～11/19(日)）（村上正巳 会長）

2017 年 11 月 16 日（木）～19 日（日）に、国立京都国際会館（京都）において、テーマ「次世代の医療の進歩への貢献」(Contribution to Medical Innovation of the Next-Generation)として第 64 回学術集会和、11 月 15 日（水）～18 日（土）に第 29 回世界病理学・臨床検査医学会連合会議（The 29th World Congress of World Association of Pathology and Laboratory Medicine (WASPaLM)）を合同会議として開催予定であり、日程表と WASPaLM の最終案内が資料として示され、第 64 回学術集会和第 29 回 WASPaLM 会議の主な行事、特別講演、共催シンポジウム、委員会企画、セミナー、基調講演、教育講演等が報告された。

5. 第 65 回学術集会報告（東京 2018/11/15(火)～11/18(日)）（東條尚子 庶務担当理事）

2018 年 11 月 15 日（木）～11 月 18 日（日）に、京王プラザホテル（東京）において、村田満会長（慶應大）のもと、テーマ「新しい医療を支える検査の力」にて開催予定であることが報告された。

6. 第 34 回臨床検査専門医認定試験結果・会計報告について（東京 2017/8/5-8/6(土日)）（矢富 裕 理事長）

臨床検査専門医認定試験最終判定結果は受験者 33 名中合格者 29 名（合格率 87.8%）であったこと、現時点の認定試験費用の収支概要が報告された。

7. 理事・監事 選挙報告、支部理事について（東條尚子 庶務担当理事、宮地勇人 選挙管理委員会委員長）

次期理事・監事選挙日程、支部理事の推薦依頼の予定について報告された。

8. 支部規約の提出について（東條尚子 会則改定委員会 担当理事）

現時点、当会本部にて各支部規則の最終版を確認できていないため、各支部に、2015 年 10 月 3 日の理事会で承認された支部規約雛形による最新の支部規約の提出依頼をした。

9. 本学会からの関連団体委員推薦について（更新）（矢富 裕 理事長）

前回、理事会 3 月 26 日以降の当会からの派遣委員等について報告された。

1) PMDA 専門委員（2017/5/15 推薦）

東條尚子先生（三楽病院）

2) 認定輸血検査技師制度 協議会・審議会 資格審査委員会 委員（2017/6/22 より 2 年間（4/12 に推薦））

萩原剛先生（東京医大）

3) 日本医学会評議員、連絡委員、医学用語委員会委員、代委員（任期：2017/6/16～2019/6 臨時評議員会まで）

評議員：矢富 裕先生、連絡委員：山田俊幸先生、医学用語委員：東條尚子先生、医学用語代委員：♫谷直人先生

10. 「医療法等の一部を改正する法律」の成立について（矢富 裕 理事長）

検体検査の品質・精度を保つための本法案が成立した。今後、具体的な基準（省令）が策定されることになり、そのための検討会が予定されている。厚生労働科学特別研究事業として、臨床検査における品質・精度の確保に関する研究（研究代表者 矢富裕）において、関連の検討を行っていることが報告された。学会としても、関連委員会を中心に、対応する予定であることが確認された。

11. その他

第 11 回特別例会報告（2018 年開催、前川真人 特別例会長）

2019 年 4 月に名古屋で開催する予定であることが報告された。

Ⅲ 審議事項

1. 細則の一部改定 評議員候補者の要件について（会則改定委員会 ♫谷直人 担当理事、東條尚子 委員長）

日本専門医機構による新専門医制度が開始となり、それに伴い「基本領域 臨床検査専門医」、臨床検査領域基幹施設の統括責任者が新たに認定されるため、これに合わせた細則における評議員候補者資格要件の一部改定案が提示され、承認された。

2. 臨床検査管理医規定の一部改定について（矢富 裕 理事長）

6 月 17 日の臨床検査専門医・管理医審議会でも議論された管理医の受験資格の会員歴について、現規定の「会員歴 1 年以上であること」を、臨床検査専門医受験資格と同じ、「受験時会員であること」とし、入会年に受験可能とする

改定案が提案され、承認された。

3. 2017 年功労賞：河合忠賞の受賞者について（矢富 裕 理事長）

2017 年度の功労賞：河合忠賞受賞者について、過去の受賞歴、名誉会員の学術集会長、役員等のリストにより協議し、高橋伯夫先生（元関西医大）が最も合致するとなり、満場一致で承認された。

4. WASPaLM2017 への補助金について（矢富 裕 理事長、諏訪部章 会計理事）

本年、第 64 回学術集会と同時期に、日本では 34 年ぶりに WASPaLM2017（第 29 回）が開催されるが、2017 年度予算に補助金が計上されてなかったため、特別会計に 100 万円を補助金として計上する提案があり、承認された。なお、学術集会と WASPaLM の会計は分けた形でご報告いただく。

5. 学術集会での委員会企画講師（非会員）の交通費・謝礼について（矢富 裕 理事長、諏訪部章 会計理事）

学術集会委員会企画の講演者が非会員の場合の謝礼についての支払元について、当会での必須である企画での医療安全シンポジウムのみ当会一般会計から、その他は学術集会からの支払いとし、その場合、医療安全シンポジウムの謝礼は 3 万円(源泉税別)と交通費とすることが提案され、承認された。

6. 日当の廃止について（矢富 裕 理事長、諏訪部章 会計理事）

国立大学 2 大学より、ガイドラインに基づく公表の打診が有り、その対策として、役員、委員会委員等の日当廃止が提案され、翌日（9/3）以降の会議、委員会から施行することが承認された。

7. 本学会会員の「臨床検査のガイドライン」著者への更新単位の付与等について（矢富 裕 理事長、東條尚子 ガイドライン作成委員会担当理事、山田俊幸 専門医担当理事）

臨床検査のガイドライン JSLM2018 の作成にあたり、ガイドライン作成委員会から、原稿料は会員には無支給とするが機構専門医更新単位を付与する。非会員には、原稿料 一律 2 万円（源泉税込 22,274 円）、新規は、3 万円（源泉税込 33,411 円）とする提案があり、承認された。

8. 「日常初期診療における臨諸検査の使い方」に関するアドホック委員会の立ち上げについて（矢富 裕 理事長、東條尚子 ガイドライン作成委員会担当理事）

臨床検査のガイドラインの日常初期診療における臨床検査の使い方は、1989 年以降改訂されていない状況であるため、臨床検査点数委員会に熊坂一成先生を委員に加えて、検討していくことが承認された。

9. JCCLS の 医学教育用基準範囲（案）について（宮地勇人 理事）

JCCLS より、JCCLS 基準範囲共用化委員会で、学生用の共用基準範囲の設定プロジェクト SWG を設置し、学生用基準範囲(案)とそれが統計学的に許容できるかの検証を行い、医学教育用基準範囲（案）という名称にすること、共用 RI の丸め値と基準範囲上下限值許容幅の基準範囲の審議依頼があり、この方向は承認され、経過を確認していくこととなった。

10. 2018・2019 年度臨床検査専門医及び管理医認定試験実行委員長について（矢富 裕 理事長）

2018・2019 年度の、臨床検査専門医試験実行委員長を古川泰司 先生（帝京大学）に、臨床検査管理医試験実行委員長を東田修二 先生（東京医科歯科大学）に任命する提案があり、承認された。

11. 2018 年の定時社員総会について（矢富 裕 理事長）

2018 年 3 月 24 日（土）の定時社員総会に、今年開催したような講演会、委員会、派遣委員などの報告を行うかどうかの検討依頼があり、理事、監事の承認、役職報告等があるため、講演会などは開催しないこととなった。

12. 専門医関連事項（山田俊幸 専門医担当理事）

1) 現状説明：新専門医制度の現状と今後の予定

7 月 31 日までに領域での研修プログラム一次審査終了し、日本専門医機構に提出した。8 月～9 月末日で都道府県協議会、機構による 2 次審査がある。2 次審査終了前に、一次審査通過暫定プログラムを学会、施設（担当科）の HP で公開するよう機構より依頼があった。統括責任者には、2 次審査後に、登録システム使用のための ID とパスワードが送付される、その後、必要事項の入力し運用を開始する。

現時点、10 月 1 日～11 月中旬に専攻医が学会 HP から登録システムに入力、11 月中旬～12 月に統括責任者が面接

試験、採否を決定し、システムに入力する。1月からは2次募集となる予定。
カリキュラム制研修は、採用人数は指導医数（一人あたり3名まで）の総量規制を受け、学会で可否を判断する。

2) 学会専門医制度の今後について

学会の臨床検査専門医も継続予定。2020年度が学会臨床検査専門医の最後の試験となるが、不合格者の救済も検討していきたい。

3) e-learning について

学術集会での RCPC を録画して、e-learning での単位付与を行う予定でアイアイシステムズに委託した。約 100 名を想定しているため、利用料は 1 万円となる予定である。

13. パートタイマー就業規則（案）について（東條尚子 会則改定委員会 委員長）

今回、パート職員を雇用することもあり、パートタイマー就業規則を再検討しその（案）が提示され、承認された。

14. 職員産休、育休期間中の職員（パート）の雇用について（矢富 裕 理事長）

9月21日より、職員の宮尾愛子氏が産休・育休に入るため、代替のパート職員として小川裕康氏を雇用することが報告され、承認された。

15. 委員会活動の活性化について（矢富 裕 理事長）

委員会活動の活性化とアピールのため、委員会活動をホームページに掲載し活動内容を会員に周知していくこと、学会からの配信メールのときに、関連する委員会でのコメントを付記した上で、理事長とその委員会担当理事、委員長との連名で送信することが提案され、承認された。

16. ASCPaLM について（矢富 裕 理事長、宮地勇人 ASCPaLM 理事）

第 64 回学術集会時の ASCPaLM 関連行事への支援の提案、ASCPaLM と当会との協調の提案があり承認され、必要に応じて、今後も継続して協議していくこととなった。

17. その他（東條尚子 庶務理事）

次回以降の理事会、定時社員総会日程が報告された。

2017 年度第 3 回理事会：2017 年 10 月 14 日（土）13：30～

2017 年度第 4 回理事会：2017 年 12 月 23 日（土）13：30～

IV 閉会の挨拶（山田 俊幸 副理事長）

山田俊幸副理事長より、閉会の言葉があり、本理事会は閉会された。

以上

議事録署名人

_____ 印

_____ 印